

男鹿山塊 大蛇尾川

平成20年8月13日～15日

志満、平本(記)

8月12日20:00 志満さん宅出発。

8月13日。2:30頃西那須塩原IC付近の道の駅に到着し仮眠。

翌朝7:20に大蛇尾川林道入口に駐車して歩き出す。この林道、中間部分は良く整備されているが、入り口と終点付近は荒れて轍が深く、乗用車では通行は無理。

9:50林道終点から取水堰に降りる。渓相も、青い水も美しい美渓。二俣までは水量豊富な川の中上流部の面影を保っている。

11:40二俣到着。東俣は相変わらずの美渓の様相だが、西俣はやや平凡な河原の様に見える。二俣には河原より一段高いところに整備された(?)幕場があり、ブルーシートや薪がストックされている。熱心な釣り人が泊まりがけで来るようだ。

12:10ヤギ滝。平凡な河原の終わりに大岩の堆積した崩壊地があり、左から直角にヤギ滝が出合う。その沢で最初に現れる滝という物とはとても印象に残る。特にこの滝は変わった形をしていると思う。一段目は易しく、A0混じりの二段目も問題はない。釜の水は聞いていた通りに深く、ブルーで美しい。ここからナメ滝と釜がいくつか出てきて美しい。『透明に近いブルー』も納得。



時間があったら泳いだりして遊びたい所。

12:40幅広8m滝。左岸も右岸も巻きは容易そうではない。下から滝を見上げると上部は手がかりがなさそうで、落ち口のA0スリングまでの数歩が難しそうだ。実際に取り付いて見ると、ハーケンが数枚あり、手がかりもあった。空身で登った自分のリュックを上げる。志満さんもしっかりと登ってきた。

13:20 1080m付近の3m滝。左から巻いて越える。この先ゴルジュ。と言っても圧迫感はない。左から階段状のはっきりとした滝が2本合流してくる。

この付近まで来ると、自分はいよいよ疲れが出て来て歩が進まない。身軽にスイスイ先行する志満さんをだいたひ待たせてしまう。彼女はそんな待ち時間も地形図とコンパスの現在地確認に使って無駄にしている様子。

14:40スタレ状12m、トイ状8m、大ナメ30m。美しいナメ滝が、美しい水の釜を伴って連続する。トイ状8m滝の釜の美しさ、いずれも見所。さすが百名谷の感が強くなる。

15:20マタギ小屋跡。具体的に何処が小屋跡なのか解らなかったが、右岸に平で広いところがある。自分はかなりバテが来ており、この辺で幕としたい気持ちだったが、リーダーは明日の行程を考慮して、大滝よりも上まで行くとのこと。明日以降の天候は心配だったし、事実、二俣に帰着したのが18時過ぎになった事を考えると、この時の志満さんの判断は適切だった。

15:35大滝30m到着。自分はバテバテで暫くは大滝と正対できなかった。

一休みして落ち着いてからその迫力ある姿を観察する。直登ルートと言われる所の下部は草付きで中間はのっぺりしており、上部は灌木が掴めそうに見えた。悪そうである。

高巻きルートはすぐに解った。20～30m戻った左岸沢形から上がって、笹藪をトラバースし、太

い縦の木(?)の基から土バンドを下って、水流右の灌木帯に出ることが出来る。灌木帯から改めて直登ルートを眺めると、取り付けから見よりも高さがあり、一層難しそうに見えた。

灌木帯は落ち口より少し高いところでトラバースをして、落ち口上に出る。

自分は適切なルートが解らず、恐怖心からザイルを出そうとするが、志満さんが先行するルートについていったら、ザイルは必要無かった。

この高巻きで、『まだまだ自分は力量が足りないな。』そんな現実を痛感させられた。

大滝を越えると5m、10mのナメ滝がある。容易だが見た目以上に良く滑る。

17:50幕場。もうすぐ目的地の鹿ノ又沢出合いだが、1360m付近に小さいが快適そうな場所があったので、ここで幕となる。

砂利をどけると砂地となり、マットを敷かなくとも快適に寝られる好幕場だ。急いでツェルトを張り、薪を集める。

8月13日

8:15ゆっくりめの出発。沢は急に小さくなり源流の様相。

8:35鹿ノ又沢出合。期待されるようないい幕場は見あたらず、昨日の場所選びは適切だった。奥の二俣までの間には小滝がいくつかあり、以外と距離を感じた。

9:15奥の二俣。1440mで左岸から沢が入る格好で二俣となる。一段高いところにテン場が見える。ここから1872m北のコルまで430mの登りである。最初の150m位は沢と薄い笹くらいで楽である。空が近くなると笹も高く濃くなり、最後の70m位は灌木も混じり大変だった。

11:55 1872m北のコル。笹の背丈は高くなく、視界が効く。稜線上を林道の様に那塩スカイラインがうねり、SAらしき建造物まで見える。やや北側に振りながら東俣を目指して笹原を下る。やがて沢形になり、流れが出てきて沢の源流にな

る。赤い沢床のナメを下ってゆくと足下がスッパリと切れ落ちている。

13:50 凹状15m滝。3段くらいでもっと高さがあるように見える。凹の中も激流だ。左岸を巻き下る。

14:50奥の二俣3m滝。右岸を少し巻いてから懸垂。ここから暫くは美しい白いナメを楽しみながら下る。

二条20m滝。落口に下降用スリングがある。傾斜は急で、滑りやすいので懸垂も楽ではなかった。真っ直ぐ降りると釜の深いところに降りてしまうので振り子をして逃げるが上手く行かない。

すぐに2段30mの滝。こちらはトラロープなどを掴んでクライムダウンできた。この滝はスタレ状に広がって美しい滝である。高さも30mよりは少し高いように見えた。

15:50 S字トイ状滝。上から眺めると形が面白い。右岸から巻き下れる。

6m、5mとナメ滝を下ると穏やかな流れとなりもう滝はない。二俣が近くなると妙に魚影が濃く、良形も瀬に出て活発だ。

18:30二俣 何とか二俣に戻ることが出来た。登りコースタイムの65%が早いか遅いかは解らない。すぐに幕を張り、薪もすぐに集まった。明日は下山のみなので時間が遅くても気にならない。天気も心配したが星を見ながらゆっくりと過ごした。

8月15日

8:15出発。天気は相変わらず良く、綺麗な川をゆっくり下る。

9:50取水口 いろいろこの美しい水色ともお別れである。

吊り橋を渡ると長い林道歩きが始まる。途中、雨に降られたりもしたが、下山の林道上では気にならない。アブなどがおとなしくなって丁度良いくらいだ。

12:25 大蛇川林道入口 通り雨が止むとアブたちがうるさい。急いで車に乗り込み温泉に向かう。

ありがとうございました。

感想 大蛇尾川は想像していたよりも美しい、良い川でした。水につかることも多いので今の時期がシーズンと思います。害虫類も多くはありません。特に危険という場所は無いのですが、立った滝は直登が難しいものが多いと思います。対してナメは優しく美しく、緩急のある楽しい溪相です。何より、西俣の水色の美しさは格別です。色々な意味で自分には十分な手応えのある沢に感じました。

今回の山行が上手く進んだのはリーダーである志満さんがどんどん引っ張ってくれたお陰だと思っています。

私は体力、高巻きの恐怖感克服などが課題になりました。同行して下さる方の足をあまり引っ張る事のない様、改善をしたいと思います。

